

吉田苑大阪オフ会報告 (2019.10.20)

1. はじめに

大阪市内のクラボウアネックスビルで開催された吉田苑 2019 年大阪オフ会という試聴会に行ってきました。

2. 使用機器等

参加メーカーと代表者、製品は以下のとおりです。

- Fundamental 鈴木哲氏 ATT10、LA10、MA10、RM10Z
- SFORZATO 小俣恭一氏 DSP-Pavo
- ZANDEN 山田和利氏 Model3100、Model8120
- DIATONE 佐藤岳氏 DS-4NB70 PARADAIM PERSONA3F、PERSONA B
- Nmode X-PM7MK2、X-DP7、X-PM3、X-DU3、X-CL3、X-PS3
- Nichicon ESS-P1S1

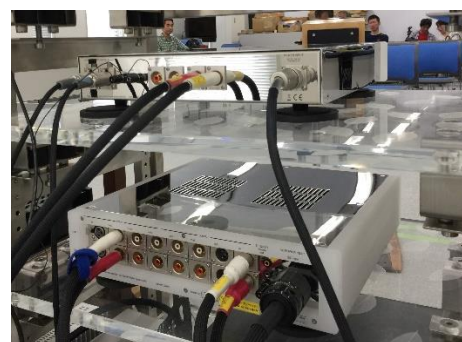
なお、これに先立って行われた東京の試聴会の様子が動画で紹介されています。

<https://yoshidaen.net/staffcolumn/tencho/20190921offmeeting/>

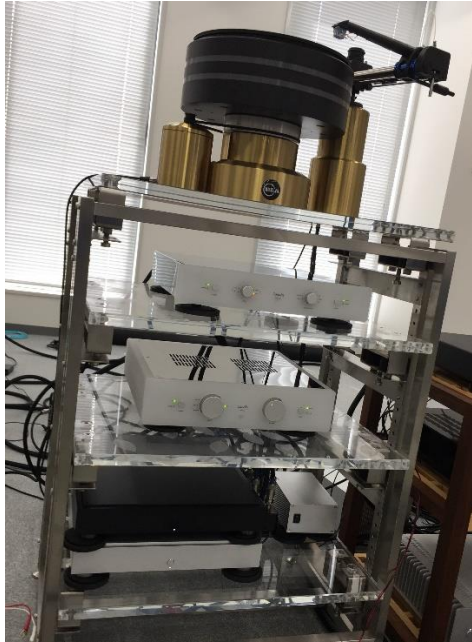
午前のフリータイム試聴と午後の ZANDEN の試聴に参加しました。



フリータイムのセッティング



ZANDEN の試聴タイムのセッティング



註：

ラック内は上段から、フォノイコライザー、プリアンプ、パワーアンプの順
上掲のフォノイコライザー、プリアンプの背面ではバランスの入出力が見え、フォノイコは2系統に対応

ザンデン試聴タイムのセッティング

3. 試聴の経過

フリータイム試聴では、N-modeの機器などを使用して参加者の希望を聴きながら順繰りに試聴が進行しました。ZANDENの番になったとき、ベートーベンの第9を希望した参加者に続いて、自宅でも聴いているバッハのチェンバロ協奏曲をかけてもらいましたが、イコライザーカーブはTELDEC、逆相の設定で、自宅のRIAAのみのフォノイコの4718信楽の音と比べ、落ち着いた自然な印象で焦点も合った感じでした。

午後からのZANDENの試聴では次の機器が使用されています。

カートリッジ ZYX Ultra 4D

ターンテーブル KUZUMA XL

フォノイコライザー ZANDEN Model 120

プリアンプ ZANDEN Model 3800

メインアンプ ZANDEN Model 8150 (KT150 使用)

スピーカー DIATONE DS-4NB70

最初に2曲ほど盤をかけた後、イコライザーカーブの説明があり、Model 120では次のカーブに対応していることのことでした。

RIAA TELDEC EMI COLUMBIA DECCA

また、盤のカッティングには正相と逆相の盤があり、上記フォノイコライザーとプ

リアンプにはそういった切り替えが可能とのこと。正相と逆相の盤ができてしまう原因は、レコード業界と機器業界でバランスケーブルの2番ピンのホットとコールドが逆になっていることに由来し、現実には、レーベル毎、カットイング毎に混在しているそうです。こういったイコライザーカーブの切り替えと正相と逆相の切り替えは、SWで演奏中でも可能とのこと。

最初の2曲はバロックアンサンブルとロストロポーヴィチのアルペジオソナタで前者はTELDECカーブの逆相、後者はDECCAカーブで再生されました。ともに非常に落ち着いた音で、弦の艶も申し分ありません。フリータイムのチェンバロ協奏曲もそうですが、バロックは、実際の演奏会ではそうでもないのに、オーディオでは、ともすればハイ上がりで騒がしい音になる理由が理解できました。

ここで、RIAAカーブとCOLUMBIAカーブの切り替え実験が行われ、逆相の設定で、カーペンターズとJAZZをかけながら切り替えが行われました。切り替えの際には一時的にミュートがかかるようでポップノイズなどはありません。ともにCOLUMBIAカーブの方がバランス良く、自然な感じで焦点も合ってきますが、RIAAカーブは騒がしさが付きまといまいます。カーブが合っていないと、周波数帯域での強弱のバランスが崩れる他、帯域毎の強弱が変わることで、位相がずれて焦点もおかしくなることが理解できました。バロックなどでは音律やピッチも通常の音楽とは違いますので、倍音の出方が変わってきて、敏感に影響するものと推測されます。

最後にミルバのヴォーカルがTELDECカーブで、長岡A級外盤のヴェトナムの琴の民族音楽がRIAAカーブでかかりましたが、立ち上がりが高く鮮度感のある音がしました。ヴェトナムの琴では、爪弾きながら弦を押える強さを加減するところまで分かりました。

なお、ZANDENの山田和利氏には試聴席を離れた場所で、より詳しい解説を聴くことができ、資料の送付もお願いいたしました。RIAAカーブや位相については、膨大なテストの結果、リストを整理されているとのこと。同じ曲の盤でも、オリジナル盤と国内盤で位相が異なっている場合があり、プレスだけ国内でやる場合は問題ないのですが、カットイングからやると使用するシステムで変わってくることもあり、マトリックスの表示で見当がつくこともあるとのことでした。

なお、同社の製品情報のサイトは以下のとおりです。

<http://www.zandenaudio.com/jp/product.php>

4. まとめ

一方的にデモが進行する試聴会と違って、参加者も注文を付けながらの双方向の進行で、興味ある試聴会でしたが、オフ会という名称は本来の意味から離れた誤解を招く言葉で、当初参加に躊躇するものがありました。

メーカーのデモは、ZANDENしか聴けませんでした。大変興味ある話と音出しがあつて有意義でした。もう一つの参加目的のSFORZATOには資料の請求をお願いしました。

以上